# 第６講
# 工業・貿易に関する統計

## ［１］鉄鋼

### ＜必修統計；鉄鋼(粗鋼)の生産推移＞

| 順位 | 国名 | 1970年 | 1980年 | 1990年 | 2000年 | 2010年 | 2017年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １位 | A | 1780 | 3712 | 6635 | 12850 | 62665 | 83173 |
| ２位 | B | 9332 | 11140 | 11034 | 10644 | 10960 | 10466 |
| ３位 | インド | ・・・ | ・・・ | 1496 | 2692 | 6832 | 10137 |
| ４位 | C | 11931 | 10146 | 8973 | 10182 | 8050 | 8161 |
| ５位 | ロシア | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 5914 | 6694 | 7149 |
| ６位 | D | 50 | 856 | 2313 | 4311 | 5836 | 7103 |
| ７位 | E | 4504 | 4384 | 3843 | 4638 | 4383 | 4340 |

単位は万t。『データブック　オブ・ザ・ワールド』『世界国勢図会』により作成。

選択肢；アメリカ合衆国・韓国・中国・ドイツ・日本

### ＜要点整理＞

・生産１位の国は，1980年代以降急激な伸びを示している世界最大の工業国。かつての内陸部から臨海部へと鉄鋼地域が移動。主な鉄鋼都市はパオシャン(シャンハイ近郊)。

・生産２位の国では，かつては北海道や九州の石炭産地に接して製鉄所が立地。高度経済成長期以降は，太平洋ベルト地帯の臨海部に製鉄所が設けられる。鹿島(茨城県神栖市)，水島(岡山県倉敷市)など。

・生産３位はインド。20世紀初頭に民族資本による製鉄所がジャムシェドプルに建設された。国内の豊富な資源を利用して鉄鋼生産が拡大。

・生産４位の国では，かつては内陸部の石炭産地にピッツバーグなどの鉄鋼都市。1980年代に大規模な鉄鋼不況が生じ，生産量を激減させる。現在は臨海部に輸入鉄鉱石を利用した製鉄所がつくられた(ボルチモア)。

・生産５位はロシア。旧ソ連時代は世界最大の鉄鋼国であった。

・生産６位の国では，日本海に沿うポハンに臨海型の製鉄所。

・生産７位の国では，西部のルール地方に炭田立地型の鉄鋼業が成立。ライン川の水運を利用してスウェーデンなどから鉄鉱石を輸入。しかし，近年は鉄鋼生産は停滞しており，再開発によって先端産業の集積する地区となってきている。

**［発展］**　多くの国において，鉄鋼業は初期の原料地指向から現在の臨海指向へと立地パターンを変化させている。

| | 原料地指向型の鉄鋼生産地 | 臨海指向型の鉄鋼生産地 |
|---|---|---|
| 中国 | アンシャン | パオシャン(シャンハイ) |
| 日本 | 釜石(岩手県)<br>北九州(福岡県) | 鹿島(茨城県)<br>水島(岡山県) |
| アメリカ合衆国 | ピッツバーグ | ボルチモア |
| インド | ジャムシェドプル | ・・・ |
| 韓国 | ・・・ | ポハン |
| ドイツ | ルール地方 | ブレーメン |
| イギリス | バーミンガム | カーディフ |
| フランス | ロレーヌ地方 | ダンケルク |
| イタリア | ・・・ | タラント |
| ウクライナ | クリボイログ<br>ドネツク | ・・・ |
| ブラジル | イパチンガ | ・・・ |

## ［２］自動車

## ＜必修統計；自動車の生産・乗用車の輸出入＞

| | 国名 | 乗用車生産 | 商用車生産 | 合計 | 乗用車輸出 | 乗用車輸入 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １位 | A | 24421 | 3698 | 28119 | ・・・ | 1063 |
| ２位 | B | 3917 | 8264 | 12180 | 2155 | 7376 |
| ３位 | C | 7874 | 1331 | 9205 | 4118 | 331 |
| ４位 | D | 5747 | 0 | 5747 | 4411 | 2695 |
| ５位 | インド | 3707 | 812 | 4519 | ・・・ | ・・・ |
| ６位 | 韓国 | 3860 | 369 | 4229 | 2507 | ・・・ |
| ７位 | メキシコ | 1993 | 1607 | 3600 | ・・・ | ・・・ |
| ８位 | スペイン | 2354 | 532 | 2886 | 2011 | 804 |
| ９位 | カナダ | 803 | 1567 | 2371 | ・・・ | ・・・ |
| 10位 | ブラジル | 1778 | 378 | 2156 | ・・・ | ・・・ |
| 11位 | フランス | 1636 | 454 | 2090 | 4735 | ・・・ |
| 12位 | タイ | 805 | 1139 | 1944 | ・・・ | ・・・ |

単位は千台。輸出の・・・は７位以下であることを示す。統計年次は2016年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』『世界国勢図会』により作成。

選択肢；アメリカ合衆国・中国・ドイツ・日本

## ＜要点整理＞

・世界最大の自動車生産国では安価な労働力を求めて，先進国から小型車を中心に生産の拠点が移動。また近年は販売台数も急増し，現地生産も行われる。

・生産２～４位はいずれも先進工業国で，多くの自動車メーカーが本社を置く。２位の国は1970年代までは首位だったが，オイルショックの影響や製造拠点の国外移転によって順位を落とす。３位の国では1980年代に首位に立ち，以降乗用車の輸出が多いが，欧米諸国と貿易摩擦の問題も生じた。４位の国は巨大な自由貿易圏の中心的な存在で，乗用車の輸出と輸入がともに多い。

・インドでは，日本との合弁会社や自国メーカーによる生産が行われている。韓国では，1980年代に台頭してきた財閥系の企業が国内の有力メーカーとなっている。ブラジルでは，外国との合弁企業によってバイオマスカーの開発が進む。

・メキシコとカナダはいずれもNAFTAの調印国。アメリカ合衆国との間に自由貿易協定が結ばれており，多くの生産拠点を受け入れている。また，タイには日本から，スペインにはフランスなどから，それぞれ自動車工場が進出している。さらに近年はポーランドやチェコなど東ヨーロッパ地域にも工場進出が拡大している。

**［発展］** 日本とアメリカ合衆国の自動車をめぐる問題点について整理しよう。

1960年代；アメリカ合衆国が世界最大の自動車生産。日本は高度経済成長によって工業化が進む。

1970年代；オイルショックによってアメリカ合衆国の自動車工業は停滞。逆に，燃費のいい日本車人気が高まり，日本の自動車生産台数は急増。

1980年代；ついに日本がアメリカ合衆国を逆転し，世界最大の自動車生産国へ。日本からアメリカ合衆国へと自動車が輸出され，日本の貿易黒字，アメリカの貿易赤字という貿易不均衡が生じる。

1990年代；貿易摩擦の解消のため，アメリカ合衆国内に日系企業が進出し，現地生産が進められ，2000年代には再びアメリカ合衆国が世界最大の自動車生産国となる。しかし，現在はメキシコなどに工場が流出するなど生産は停滞し，とくにデトロイトを拠点とする自国メーカーの経営は悪化し，破綻するところも。

## ［３］軽工業・素材工業

## ＜必修統計；軽工業製品・素材工業製品の主な生産国＞

| 工業製品 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | 特徴的な国 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 中国 | インド | パキスタン | インドネシア | ６位；トルコ |
| B | 中国 | かつては日本でも生産が盛んだった。原料の生産も多かった。 | | | |
| C | 中国 | インド | ５位；台湾 | かつて１位だったアメリカ合衆国は現在３位。 | |
| D | アメリカ合衆国 | ブラジル | カナダ | ５位；スウェーデン | ６位；フィンランド |
| E | 中国 | ロシア | カナダ | ５位；アラブ首長国 | ７位；ノルウェー |
| プラスチック | 中国 | アメリカ合衆国 | ドイツ | 韓国 | ５位；日本 |

統計年次は2016年。ただし，絹織物が2015年，パルプが2017年，綿織物が2014年，プラスチックが2012年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；アルミニウム・化学繊維・絹織物・パルプ・綿織物

## ＜要点整理＞

・Aの生産上位国はいずれも低賃金国だが，とくに原料である綿花の生産国が並ぶ。パキスタンが特徴的。

・Bはかつての日本の代表的な輸出品目だった。この工業の衰退とともに養蚕業も衰え，桑畑の面積も縮小した。

・Cは，素材を生産する石油化学工業の側面と，衣服を縫製する繊維工業の側面とがある。低賃金であり，さらに石油化学工業も発達した国がランクインしている。アジアNIEsに分類される台湾での生産が特徴的。

・D工業は，原料である木材（とくに針葉樹）と結びつく。ヨーロッパでは森林資

源に恵まれているスウェーデンやフィンランドでの生産が多い。なおDとは木材の加工品であり，これからさらに紙がつくられる。

・Eはボーキサイトを原料とする金属で，精錬の際に大量の電力が必要となる。安価な電力が安定的に供給される水力発電と結びつく傾向があり，わが国はロシアなどから多く輸入している。

・プラスチックはGNI上位国が並ぶ(韓国を除く)。資源多消費型の重工業である。

**［発展］**　アルミニウム精錬には電力が必要であり，ロシアのシベリア地域・カナダ・ノルウェーなど水力発電地域にアルミニウム工場が立地。

　注目はアラブ首長国連邦。原油資源の豊富な国であり，安価な石油により火力発電が行われ，アルミニウム精錬に利用されている。なお，西アジア地域は南アジアなど他地域からの出稼ぎ労働者が多く流入しているが，彼らは主に建設業に従事しているのであり，こうした製造業の労働力ではないので注意。そもそもアルミニウム精錬業は労働力を必要とする工業種ではない。

# ［4］機械工業

## ＜必修統計；機械工業製品の主な生産国など＞

| 工業製品 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 中国 | 韓国 | 日本 | 3か国で90％以上 | |
| B | 中国 | 日本 | アメリカ合衆国 | 韓国 | ドイツ |
| C | 中国 | マレーシア | タイ | インドネシア | 韓国 |
| D | 中国 | 日本 | 韓国 | 中国のみで90％を超える。 | |
| オートバイ | インド | 中国 | インドネシア | タイ | パキスタン |
| 工作機械 | 中国 | ドイツ | 日本 | アメリカ合衆国 | イタリア |

統計年次は2016年。ただし薄型テレビとPCは2015年，船舶は2017年，パキスタン（オートバイ）は2014年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』『世界国勢図会』により作成。

選択肢；薄型テレビ（アジアのみ）・産業用ロボット（稼働台数）・船舶・ＰＣ

## ＜要点整理＞

・Aはかつて日本が世界全体の約50％の生産を誇ったが，近年斜陽傾向にあり，韓国そして中国が台頭している。長崎市ではこの工業が衰退し，人口も減少している。

・Bとは，工場内で自動に稼働する作業用機械のことで，人間に代わって細かい組み立てや加工を行う。ロボットアームなど。自動車工場をはじめとして工業のオートメーション化が進む日本が稼働台数の上位にある。

・Cはアジアにおいては中国のみでなく，東南アジアの工業国であるマレーシアやタイでの生産が特徴的。1990年代を中心に日本の工場が進出している。また表にはないが，北アメリカやヨーロッパでも比較的生産が盛んである。大型で輸送が困難であるので，現地生産がなされている。

・Dは最終組立工場のほとんどが中国に集中。ただし，OSはアメリカ合衆国，ソフトはアメリカ合衆国やインド，半導体などの部品は台湾，ドライバやメモリなどのパーツは日本でも多く生産されている。

・工作機械とは，工業製品を製造する際に使用する機材のことで，ドリルやカッター，研磨機のほか，成形型も含む。日本やドイツ，イタリアなど伝統的に技術の高い国が比較的上位にランクインしている。

・オートバイは自動車ほど大規模な工場施設を必要とせず，インドネシアでの生産が特徴的。

［**発展**］　航空機工業

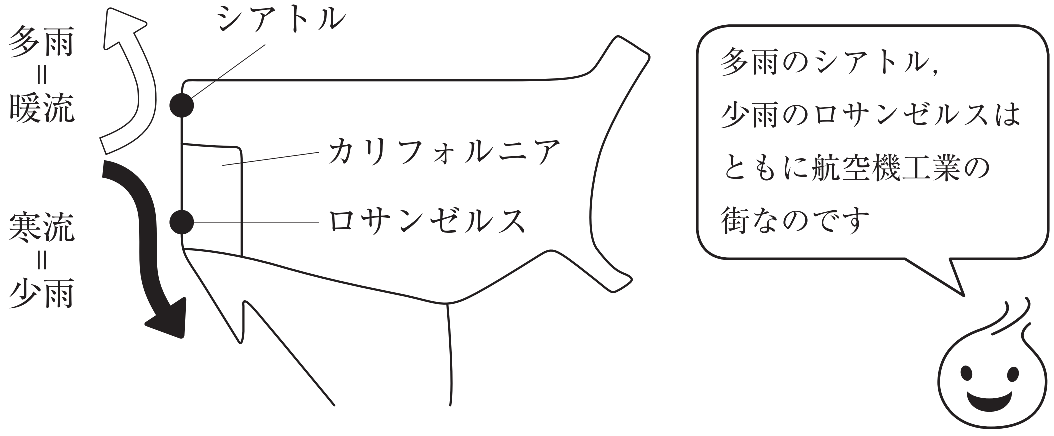
　航空機の生産が多いのはアメリカ合衆国とフランス。日本では航空機工業は発達せず，主にアメリカ合衆国から輸入している。

シアトル・・・・・アメリカ合衆国太平洋岸北部。沿岸を暖流が流れ，降水量が多い。水力発電が盛んで，安定した電力を利用してアルミニウムの製錬が行われている。アルミニウムは航空機の素材である。

ロサンゼルス・・・アメリカ合衆国太平洋岸南部。沿岸を寒流が流れ，降水量が少ない。晴天日数の多さゆえ屋外での作業に適し，航空機の組立工場が立地。

トゥールーズ・・・フランス南部内陸部。EUの共同工場が立地。ヨーロッパ各地で部品が製造されトゥールーズに集められ，最終組立がなされる。

## （アメリカの航空機工業）



多雨
＝
暖流
寒流
＝
少雨
シアトル
カリフォルニア
ロサンゼルス
多雨のシアトル，
少雨のロサンゼルスは
ともに航空機工業の
街なのです

# ［５］東アジアの貿易

## ＜必修統計；東アジア各国・地域の輸出品目と最大の貿易相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 | 輸出相手国１位 | 輸入相手国１位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 機械類 | 自動車 | 精密機械 | 鉄鋼 | 化学製品 | アメリカ合衆国 | 中国 |
| B | 機械類 | 自動車 | 船舶 | 石油製品 | 精密機械 | 中国 | 中国 |
| C | 機械類 | 衣類 | 繊維と織物 | 金属製品 | 自動車 | アメリカ合衆国 | 韓国 |
| D | 機械類（63％） | | 精密機械 | ダイヤモンド | 衣類 | 中国 | 中国 |
| E | 電気機械 | 原子炉とボイラー | プラスチック | 鉄鋼 | 精密機械 | 中国 | 中国 |

統計年次は2017年。品目の数値は当該国・地域の総輸出額に占める割合。

『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；韓国・台湾・中国・日本・ホンコン

# ［６］東南アジアの貿易

## ＜必修統計；東南アジア各国の輸出品目と最大の輸出相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 | 輸出相手国１位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 機械類 | 精密機械 | 銅 | 野菜と果実 | 船舶 | 日本 |
| B | 機械類 | 衣類 | 履物 | 魚介類 | 繊維と織物 | アメリカ合衆国 |
| C | 機械類 | 自動車 | プラスチック | 金（非貨幣用） | 金属製品 | アメリカ合衆国 |
| D | 機械類 | 石油製品 | パーム油 | 液化天然ガス | 精密機械 | シンガポール |
| E | 機械類（46％） | 石油製品 | 精密機械 | 化学薬品 | プラスチック | 中国 |
| F | パーム油 | 石炭 | 機械類 | 天然ガス | 衣類 | 中国 |

統計年次は2017年など。品目の数値は当該国の総輸出額に占める割合。

『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；インドネシア・シンガポール・タイ・フィリピン・ベトナム・マレーシア

# ［７］南アジアの貿易

## ＜必修統計；南アジア各国の輸出品目と貿易相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | 特徴的な輸出品目 | 輸出相手国 | 輸入相手国 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 衣類 | 繊維と織物 | 履物 | ジュート製品<br>えび | アメリカ合衆国 | 中国 |
| B | 石油製品 | 機械類 | ダイヤモンド | サービス貿易；コンピュータソフト | アメリカ合衆国 | 中国 |
| パキスタン | 繊維と織物 | 衣類 | 米 | スポーツ用品 | アメリカ合衆国 | 中国 |
| C | 衣類 | 紅茶 | タイヤ類 | ・・・ | １位；アメリカ<br>２位；イギリス | インド |

統計年次は2017年など。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；インド・スリランカ・バングラデシュ

# ［８］中央アジア・西アジアの貿易

## ＜必修統計；中央アジア・西アジア各国の輸出品目と最大の貿易相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | 輸出相手国 | 輸入相手国 | 過去の貿易相手国 |
|---|---|---|---|---|---|
| カザフスタン | 原油（55％） | 鉄鋼 | イタリア | ロシア | ・・・ |
| A | 原油（65％） | 化学薬品 | 中国 | アラブ首長国 | 2009年までは日本が最大の輸出相手国 |
| サウジアラビア | 原油（66％） | 石油製品 | 中国 | アメリカ合衆国 | ・・・ |
| B | 機械類 | ダイヤモンド | アメリカ合衆国 | アメリカ合衆国 | ・・・ |
| C | 自動車 | 機械類<br>３位；衣類 | ドイツ | 中国 | ・・・ |

統計年次は2017年など。品目の数値は当該国の総輸出額に占める割合。

『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；イスラエル・イラン・トルコ

# ［９］アフリカの貿易

## ＜必修統計；アフリカ各国の輸出品目と輸出相手国＞

| 国名 | 輸出品目 | | 輸出相手国 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | １位 | ２位 | １位 | ２位 | ３位 |
| エジプト | 野菜と果実 | 石油製品 | アラブ首長国 | イタリア | トルコ |
| リビア | 原油（84％） | 天然ガス | イタリア | フランス | 中国 |
| A | 原油（36％） | 天然ガス | イタリア | フランス | スペイン |
| モロッコ | 機械類 | ３位；衣類<br>４位；肥料 | スペイン | フランス | イタリア |
| B | コーヒー豆（42％） | 豆類 | アメリカ合衆国 | サウジアラビア | ドイツ |
| C | 茶 | 切り花 | ウガンダ | イギリス | タンザニア |
| D | カカオ豆 | 石油製品 | オランダ | アメリカ合衆国 | ベルギー |
| ガーナ | 金（非貨幣用） | 原油<br>３位；カカオ豆 | スイス | インド | アラブ首長国 |
| E | 原油（81％） | 液化天然ガス | インド | アメリカ合衆国 | スペイン |
| コンゴ民主 | 銅 | ３位；ダイヤモンド<br>４位；コバルト | 中国 | ザンビア | サウジアラビア |
| F | 自動車 | 機械類<br>３位；白金 | 中国 | アメリカ合衆国 | ドイツ |

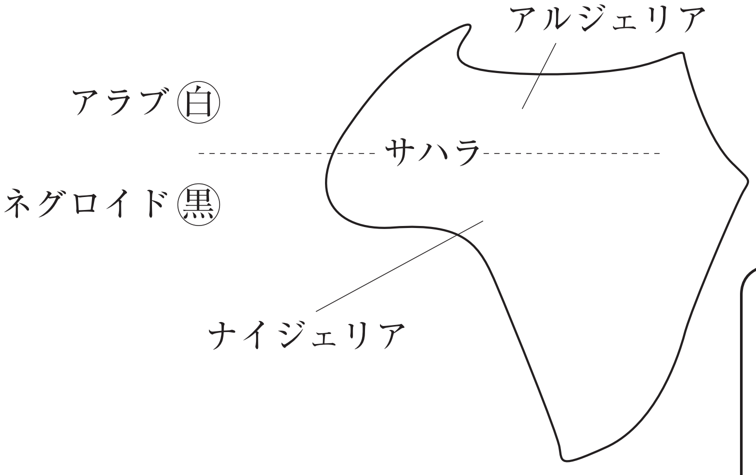
統計年次は2017年など。品目の数値は当該国の総輸出額に占める割合。

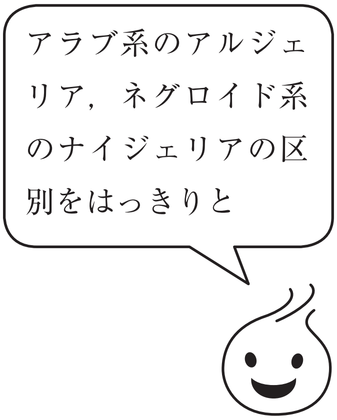
『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；アルジェリア・エチオピア・ケニア・コートジボワール・ナイジェリア・南アフリカ共和国

## ＜参考；アフリカ諸国の貿易概要＞

| | |
|---|---|
| エジプト | 原油を産するため原油（石油）関係の輸出品目が多いが，それ以外にはアルミニウム（アスワンハイダムの水力発電）と綿花（ナイル川沿いの灌漑農業）。 |
| リビア | OPEC加盟国。原油モノカルチャー。かつてのイタリア植民地。 |
| アルジェリア | OPEC加盟国。原油や天然ガスの輸出が多い。かつてのフランス植民地。 |
| モロッコ | ヨーロッパから軽工業（衣類）が進出。さらにリン鉱石とそれを利用した化学肥料，日本向けのタコ（寒流に面し漁獲量が多い）など。 |
| エチオピア | コーヒーモノカルチャー（原産地でもある）。 |
| ケニア | 高原に位置し，イギリス人によって茶とコーヒーのプランテーションがつくられた。 |
| コートジボワール | カカオモノカルチャー。フランスとの関係が強い。 |
| ガーナ | カカオ生産国だが，コートジボワールほど依存度は高くない。 |
| ナイジェリア | OPEC加盟国。アフリカ最大の産油量を誇り，原油モノカルチャーである。GNIもアフリカ最大。 |
| コンゴ民主 | ダイヤモンド鉱山を有し，ベルギーとの関係が深い。他にレアメタルであるコバルトや，国土南部で採掘される銅（コンゴ民主からザンビアにかけての地域はカッパーベルトと呼ばれる）など。 |
| 南アフリカ共和国 | ナイジェリア，エジプトに次ぐGNIで，１人当たりGNIも高い。アフリカ最大の工業国であり，資源も豊富で白金など輸出が多い（なお金鉱の産出も多いが，輸出については貿易統計に表れないので注意）。 |




## [10] 北ヨーロッパの貿易

### ＜必修統計；北ヨーロッパ諸国の輸出品目＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | アルミニウム | 魚介類 | 機械類 | 魚粉 | 鉄鋼 |
| B | 原油 | 天然ガス | 魚介類 | 機械類 | 石油製品 |
| C | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 紙・板紙 | 石油製品 |
| D | 機械類 | 紙・板紙 | 石油製品 | 自動車 | 鉄鋼 |
| E | 機械類 | 医薬品 | 衣類 | 肉類 | 金属 |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；アイスランド・スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド

## [11] 西ヨーロッパの貿易

## ＜必修統計；西ヨーロッパ各国の輸出品目＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 航空機 | 原油 |
| B | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 精密機械 | 金属製品 |
| C | 機械類 | 航空機 | 自動車 | 医薬品 | アルコール飲料 |
| D | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 衣類 | 金属製品 |
| E | 自動車 | 機械類 | 野菜と果実 | 衣類 | 石油製品 |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；イギリス・イタリア・スペイン・ドイツ・フランス

## [12] 東ヨーロッパなどの貿易

## ＜必修統計；東ヨーロッパ各国などの輸出品目と最大の輸出相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | 輸出相手国１位 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 医薬品 | 金（非貨幣用） | 機械類 | 精密機械 | ドイツ |
| B | 機械類 | 自動車 | 石油製品 | 衣類 | スペイン |
| C | 機械類 | 自動車 | 金属製品 | 家具 | ドイツ |
| D | 鉄鋼 | ひまわり油 | 機械類 | トウモロコシ | ロシア |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；ウクライナ・スイス・チェコ・ポルトガル

## ［13］アングロアメリカ・オセアニアの貿易

### ＜必修統計；アングロアメリカ・オセアニア各国の輸出品目と最大の輸出相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 | 輸出相手国１位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 自動車 | 原油 | 機械類 | 金（非貨幣用） | 石油製品 | アメリカ合衆国（76％） |
| B | 機械類 | 自動車 | 石油製品 | 精密機械 | 化学薬品 | カナダ |
| C | 機械類 | 自動車 | 原油 | 精密機械 | 野菜と果実 | アメリカ合衆国（80％） |
| D | 鉄鉱石 | 石炭 | 液化天然ガス | 金（非貨幣用） | 肉類 | 中国 |
| E | 酪農品 | 肉類 | 木材 | 野菜と果実 | 機械類 | 中国 |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；アメリカ合衆国・オーストラリア・カナダ・ニュージーランド・メキシコ

（注）メキシコはラテンアメリカだが，NAFTA（北アメリカ自由貿易協定）の調印国であり，アメリカ合衆国とカナダとの自由貿易圏に含まれているため，ここではアングロアメリカの一員とした。

# ［14］ラテンアメリカの貿易

## ＜必修統計；ラテンアメリカ各国の輸出品目と最大の輸出相手国＞

| 国名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | 輸出相手国１位 |
|---|---|---|---|---|---|
| キューバ | 鉱物 | 化学工業品 | 砂糖 | たばこ | ベネズエラ |
| A | アルミナ | 石油製品 | アルコール飲料 | ボーキサイト | アメリカ合衆国 |
| コロンビア | 原油 | 石炭 | コーヒー豆 | 石油製品 | アメリカ合衆国 |
| B | 原油（85%） | 石油製品 | 石油製品 | 鉄鋼 | アメリカ合衆国 |
| エクアドル | 原油（32%） | バナナ | マグロとカツオ | 切り花 | アメリカ合衆国 |
| ペルー | 銅鉱 | 金（非貨幣用） | 野菜と果実 | 石油製品 | 中国 |
| C | 銅 | 銅鉱 | 野菜と果実 | 魚介類 | 中国 |
| D | 大豆 | 鉄鉱石 | 機械類 | 原油 | 中国 |
| E | 大豆油かす | 自動車 | トウモロコシ | 大豆油 | ブラジル |

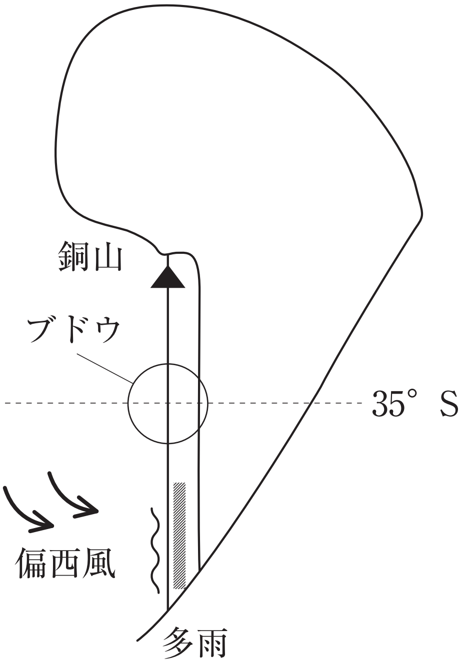
統計年次は2017年など。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

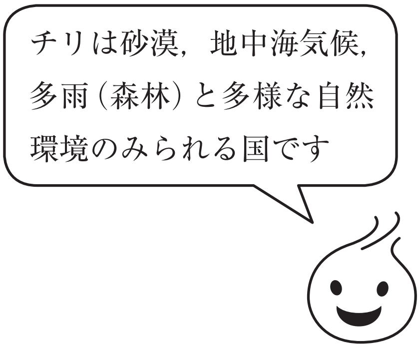
選択肢；アルゼンチン・ジャマイカ・チリ・ブラジル・ベネズエラ

## ＜参考；ラテンアメリカ各国の貿易概要＞

| | |
|---|---|
| キューバ | かつてはサトウキビモノカルチャー。同じ社会主義国のソ連へと盛んに輸出されていた。近年はニッケル鉱の産出と輸出。なお，2015年にアメリカ合衆国との国交が回復したため，将来的に貿易相手国が大きく変化する可能性がある。 |
| ジャマイカ | ボーキサイト・アルミナの産出(生産)と輸出。 |
| コロンビア | 石炭や原油などエネルギー資源の輸出が多いが，コーヒー豆も(輸出量世界３位)。 |
| ベネズエラ | OPEC加盟国。原油モノカルチャー。 |
| エクアドル | OPEC加盟国。原油が最大の輸出品目だが，魚介類や果実(バナナ)の輸出も。 |
| ペルー | 銅鉱をはじめとした鉱産資源の輸出が多いが，魚介類(フィッシュミール)も。アメリカ合衆国向けにアンチョビーの魚粉が飼料用として輸出される。 |
| チリ | 世界最大の銅鉱の産出国であり，輸出も多い。他には魚介類(寒流に面し漁獲量が多い。日本向けのサケの養殖も)や果実(地中海性気候を利用したブドウ)など。 |
| ブラジル | 南半球最大の工業国。機械類や鉄鋼，自動車など。ただし，近年は中国向けの鉄鉱石の輸出が増加している。 |
| アルゼンチン | 大豆や穀物，肉類など農畜産物が輸出の中心だが，自動車など工業製品も。 |

MERCOSUR(メルコスール；南米南部共同市場)・・・ブラジルやアルゼンチンを中核として結成された経済協力機構。自由貿易市場の創設を目指している。


銅山
ブドウ
35°S
偏西風
多雨


チリは砂漠，地中海気候，多雨（森林）と多様な自然環境のみられる国です

# ［参考－１］１次エネルギー

## ＜必修統計；１次エネルギーの供給（消費）＞

| 順位 | 国名 | 計 | １人当たり（kg） | 石炭 | 石油 | 天然ガス | 電力・バイオマスなど（＊） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1位 | A | 2958 | 2146 | 1916 | 545 | 171 | 326 |
| 2位 | B | 2167 | 6700 | 342 | 787 | 653 | 385 |
| 3位 | C | 862 | 651 | 380 | 217 | 47 | 219 |
| 4位 | ロシア | 732 | 5074 | 113 | 173 | 371 | 74 |
| 5位 | D | 426 | 3352 | 114 | 177 | 102 | 33 |
| 6位 | E | 310 | 3766 | 77 | 101 | 70 | 61 |
| 7位 | ブラジル | 285 | 1370 | 16 | 109 | 30 | 129 |
| 8位 | 韓国 | 282 | 5511 | 81 | 110 | 41 | 50 |
| 9位 | カナダ | 280 | 7724 | 17 | 99 | 95 | 70 |
| 10位 | イラン | 248 | 3085 | 1 | 77 | 166 | 3 |
| 11位 | F | 244 | 3653 | 9 | 70 | 38 | 128 |
| 12位 | インドネシア | 230 | 881 | 43 | 70 | 39 | 78 |
| 13位 | サウジアラビア | 210 | 6520 | ・・・ | 136 | 74 | 0 |
| 14位 | メキシコ | 185 | 1514 | 12 | 88 | 66 | 18 |
| 15位 | イギリス | 179 | 2725 | 12 | 61 | 69 | 37 |
| 16位 | イタリア | 151 | 2490 | 11 | 52 | 58 | 30 |
| 世界計 | | 13761 | 1852 | 3731 | 4390 | 3035 | 2605 |

（＊）原子力や再生可能エネルギーなど。バイオマス利用による火力発電や自動車用燃料も含まれる。

単位は百万t（石油換算）。統計年次は2016年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；アメリカ合衆国，インド，中国，ドイツ，日本，フランス

# ＜要点整理＞

・１位のＡは，世界の半分以上の石炭を産する国であり，固体燃料に依存する割合が極めて高い。石炭は燃焼効率が悪い（不純物が多く燃えにくい）ため，二酸化炭素の排出量が相対的に多くなり，石炭は世界最大の二酸化炭素排出国でもある。ただし，近年は再生可能エネルギーの開発も盛んで，世界最大の水力発電量および風力発電量を誇る。

・２位のＢは世界最大のGNIを有する経済大国であり，エネルギー消費量も多い。液体燃料の値が際立って大きいが，この国は原油（石油）の世界３位の産出国であると同時に，世界最大の輸入国でもある。１人当たりのエネルギー消費量も多い。先進国ながら京都議定書から離脱していたため，二酸化炭素の排出量は増加傾向にある。

・３位のＣは人口大国の一つであり，１人当たりの値が小さい。石炭を産し，固体燃料への依存度が高い。

・４位のロシアは天然ガスの産出が多く，気体燃料に依存する割合が高い。

・５位のＤは，化石燃料資源の産出がほとんどみられない国である。高度経済成長期には石油への依存度が際立って高かったが，オイルショックを契機にその割合は低下し，近年はとくに天然ガスの供給量が増加している。また世界的な鉄鋼生産国であり，その燃料として石炭の使用も多い。

・６位のＥはヨーロッパ最大のGNIを有する国。それぞれのエネルギーのバランスがよく，近年は再生可能エネルギーの利用にも積極的。世界有数の太陽光発電量を誇り，さらに国内総発電量の10％以上を風力によってまかなっている。

・11位のＦは総発電量に占める原子力発電の割合が高く，総発電量の４分の３に達する。ただし，ヨーロッパではすでに脱原発の方向にあり，この国でも将来的には原子力発電は縮小されていくだろう。

**［発展］**「エネルギー」と「発電」は似て異なるものなので注意。エネルギーには，燃料としての使用（工場や自動車など）も含まれている。これに対し，発電は，上の表における「バイオマス利用による火力発電」に加え，石炭・石油・天然ガスを使用した火力発電を加えたものである。
とはいえ，エネルギー多消費国も，発電量の多い国も，さほど変わらないのでとくに意識することはないだろう。発電量上位国は，１位・中国，２位・アメリカ合衆国，３位・インド，４位・ロシア，５位・日本，６位・カナダ，７位・ドイツ，８位・ブラジル，９位・フランス，10位・韓国。１次エネルギー消費に比べ，水力発電のカナダと原子力発電のフランスの順位が上がり，鉄鋼業で石炭を大量消費している韓国の順位が下がる。
（統計年次は2015年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』による）

# ［参考－２］エネルギー資源

## ＜必修統計；エネルギー資源の産出量と輸出量＞

| 資源名 | 産出量 | | | | 輸出量 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | １位 | ２位 |
| A | 中国 | インド | インドネシア | オーストラリア | オーストラリア | インドネシア |
| B | ロシア | サウジアラビア | アメリカ合衆国 | イラク | サウジアラビア | ロシア |
| C | アメリカ合衆国 | ロシア | イラン | カナダ | ロシア | カタール |
| D | カザフスタン | カナダ | オーストラリア | ナミビア | ・・・ | ・・・ |

統計年次は原油（輸出量）と石炭が2015年，天然ガスとウランが2016年，原油（産出量）が2017年。『世界国勢図会』により作成。

選択肢；ウラン・原油・石炭・天然ガス

## ＜要点整理＞

・Aの埋蔵は古期造山帯の分布と対応している。アメリカ合衆国東部のアパラチア山脈やオーストラリア東部のグレートディバイディング山脈など。一方，古期造山帯のみられない南アメリカ大陸ではＡの埋蔵は少ない。Aの産出は中国やアメリカ合衆国など北半球に比較的集中している。
主な輸出国はインドネシアやオーストラリアであり，主な輸入国は中国や日本である。不純物を多く含み，燃焼効率が悪いため，二酸化炭素の排出量は相対的に多い。また燃焼によって硫黄酸化物を生じ，酸性雨の原因ともなりやすい。

・Bの埋蔵は西アジアに集中している。とくにサウジアラビアは埋蔵量，産出量，輸出量もともに世界有数である。サウジアラビアをはじめとする多くの産油国から構成される国際機構がOPEC（石油輸出国機構）であるが，OPEC加盟国全体のBの産出量は世界の４割を占める。しかし欧米の石油メジャーと総称され

る企業集団や，ロシアなど新興国の存在も大きく，その勢力バランスの中で，供給量や価格も安定しない。可採年数は約60年と短く，枯渇が懸念されている。

・1960年代にＡからＢへと主要なエネルギー源が変移した大きな動きのことをエネルギー革命と呼ぶ。この時期にＢへの依存度が急激に上昇したことは，1970年代のオイルショックによる経済混乱の一因となる。

・Ｃは近年生産量の上昇が目覚ましい燃料資源である。気体を液化する際に不純物が取り除かれるため，燃料効率が高く，余分な二酸化炭素の排出が防がれ，クリーンエネルギーと呼ばれる。世界的にはロシアやアメリカ合衆国，西アジアでの産出量が多い。わが国は主にオーストラリアや東南アジアから輸入している。

・Ｄは，二酸化炭素を生じない発電方式に必要な鉱産資源である。燃焼ではなく核融合によって熱を得る。カナダやカザフスタン，オーストラリア，アフリカのナミビアやニジェールなどが主な産出国。なお，オーストラリアでは原子力発電は行われていない。

**［発展］**　OPEC（石油輸出国機構）の加盟国についてぜひ知っておこう。ほとんどの国で最大の輸出品目が原油となっている。

| 地域 | 民族 | 国名 | 特徴 |
|---|---|---|---|
| 西アジア | ペルシア | イラン | アメリカ合衆国へは輸出していない。 |
| | アラブ | イラク | ・・・ |
| | | クウェート | 産油国かつ人口小国であるので，１人当たりGNIがとくに高い。 |
| | | アラブ首長国連邦 | |
| | | サウジアラビア | 輸出量世界１位。 |
| アフリカ | | リビア | 旧イタリア領。ヨーロッパとのつながりが強い。 |
| | | アルジェリア | 旧フランス領。ヨーロッパとのつながりが強い。 |
| | 黒人（ネグロイド） | ナイジェリア | 人口大国であるので，１人当たりGNIは低い。 |
| | | ガボン | ・・・ |
| | | 赤道ギニア | ・・・ |
| | | コンゴ | ・・・ |
| | | アンゴラ | ・・・ |
| 南アメリカ | | ベネズエラ | アメリカ合衆国への輸出が多い。 |
| | | エクアドル | 魚介類と果実の輸出も多い。 |

# ［参考－３］鉱石資源

## ＜必修統計；鉱石資源の産出量＞

| 資源名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | オーストラリア | ブラジル | 中国 | インド | ロシア |
| B | チリ | 中国 | ペルー | アメリカ合衆国 | コンゴ民主 |
| C | 中国 | オーストラリア | ロシア | アメリカ合衆国 | ７位；<br>南アフリカ共和国 |
| D | メキシコ | ペルー | 中国 | オーストラリア | ロシア |
| E | オーストラリア | 中国 | ブラジル | ６位；<br>ギニア | ７位；<br>ジャマイカ |
| F | ロシア | ボツワナ | コンゴ民主 | オーストラリア | カナダ |

統計年次は2015年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；金鉱・銀鉱・ダイヤモンド・鉄鉱石・銅鉱・ボーキサイト

## ＜要点整理＞

・Ａの埋蔵は主に安定陸塊に集中している。楯状地であるスウェーデン北部，ゴンドワナランド（かつて地球に存在した古大陸）の卓状地であるオーストラリア西部など。生産上位国は中国・オーストラリア・ブラジルであるが，中国は世界最大の輸入国でもある。最大の輸出国はオーストラリア。

・Ｂの世界最大の産出国はチリ。北部の乾燥地域に巨大な鉱山がある。電線の素材として重要である。

・Ｃの上位産出国は，南アフリカ共和国やオーストラリア，アメリカ合衆国など。かつてのイギリス領で，先住民に対して差別的な政策が実施された歴史がある国々である（アパルトヘイト・白豪政策・アメリカインディアンの迫害）。

・Ｄの上位産出国は，メキシコやペルー。それぞれアステカ文明，インカ文明が

栄えた国であるが，貴金属を求めるスペインによって侵略され，植民地となった。ともにカトリック教徒が多く，スペイン語が公用語。

・Ｅは酸化物を含む鉱産資源であり，熱帯の酸性土壌であるラトソルの分布地域と産出地域が一致する傾向がある。オーストラリア北部やギニア，ジャマイカなどで産出量が多い。なおＥから取り出された物質をアルミナというが，これを精錬して得られる金属がアルミニウムである。製錬の過程で大量の電力が必要とされるため，水力発電所付近に製錬工場が立地する。

・Ｆは国別でロシアだが，大陸別ではアフリカ大陸での産出が多い。とくにアフリカ大陸中央部のコンゴ民主は旧ベルギー領であり，鉱山の採掘権も旧宗主国によって支配されている。ベルギーはＦの加工品の生産と取引において世界的な中心地である。

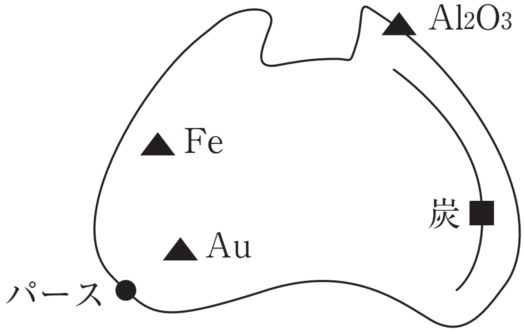
**［発展］**　上記以外にセンター試験で取り上げられた鉱石資源を紹介しておこう。

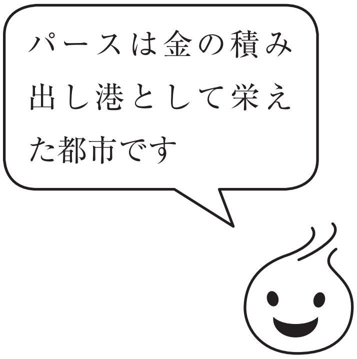
| 資源名 | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 |
|---|---|---|---|---|---|
| スズ鉱 | 中国 | インドネシア | ミャンマー | ブラジル | ボリビア |
| ニッケル鉱 | フィリピン | ロシア | カナダ | ５位；ニューカレドニア（フランス）<br>10位；キューバ | |
| リン鉱 | 中国 | モロッコ | アメリカ合衆国 | ロシア | ヨルダン |

統計年次は2015年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

・スズは缶詰のメッキなどに使用される。中国の他，南アメリカのボリビアなど。
・ニッケルはオーストラリア東方のニューカレドニア島（フランスの海外県）での産出が特徴的。クロムとの合金に利用されるレアメタルの一種である。
・リンは化学肥料の原料となる鉱物資源。北アフリカで産出が多く，モロッコの他，チュニジアでも採掘されている。太平洋の島国であるナウルではかつて盛んに採掘されていたが，現在は枯渇。

**（オーストラリアの資源分布）**



# ［参考－４］日本の貿易（１）

## ＜日本の貿易［概要］＞

１）　日本の貿易額（輸出額と輸入額の合計）は世界４位。EUのような巨大な自由貿易圏に含まれない日本は，GNIに比して貿易額は小さい。

２）　日本の主な貿易相手は長い間アメリカ合衆国だったが，近年は中国の地位が急上昇している。輸出先１位がアメリカ合衆国，輸入先１位が中国で，合計は中国が１位。

３）　日本は輸出が輸入を上回る貿易黒字国である。国・地域別では，アメリカ合衆国やEU，ASEANに対しては輸出超の貿易黒字，中国，OPEC諸国，オーストラリアに対しては輸入超の貿易赤字。

## ＜必修統計；日本の輸入品目（１）＞

［農林畜産物］

| 品目 | １位 | ２位 | ３位 |
|---|---|---|---|
| A | アメリカ合衆国 | カナダ | オーストラリア |
| B | アメリカ合衆国 | ブラジル | 南アフリカ |
| 大豆 | アメリカ合衆国 | ブラジル | カナダ |
| 牛肉 | オーストラリア | アメリカ合衆国 | ニュージーランド |
| C | アメリカ合衆国 | カナダ | デンマーク |
| D | カナダ | アメリカ合衆国 | ロシア<br>４位；フィンランド |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；小麦・トウモロコシ・豚肉・木材

　これ以外に，野菜は中国や韓国，果実はフィリピンやニュージーランド，メキシコ，えびはインドネシアやベトナム，たこはモーリタニアやモロッコなどからの輸入が多い。

# ［参考－５］日本の貿易（２）

## ＜必修統計；日本の輸入品目（２）＞

### ［鉱産資源］

| 品目 | １位 | ２位 | ３位 |
|---|---|---|---|
| A | オーストラリア | ブラジル | カナダ |
| B | オーストラリア | インドネシア | ロシア |
| C | オーストラリア | マレーシア | カタール<br>４位；インドネシア<br>５位；ロシア |
| D | サウジアラビア | アラブ首長国 | カタール |
| E | チリ | ペルー | オーストラリア |

統計年次は2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；液化天然ガス・原油・石炭・鉄鉱石・銅鉱

### ［工業製品］

| 品目 | １位 | ２位 | ３位 |
|---|---|---|---|
| F | 中国 | ベトナム | ５位；イタリア |
| G | 中国 | マレーシア | タイ |
| H | ドイツ | イギリス | アメリカ合衆国 |
| I | スイス | 中国 | タイ |
| J | インド | ベルギー | イスラエル |
| K | 中国 | ロシア | オーストラリア |

統計年次は 2017年。『データブック　オブ・ザ・ワールド』『地理データファイル』により作成。

選択肢；アルミニウム（同合金含む）・衣類（同付属品含む）・カラーテレビ・自動車・時計・ダイヤモンド

# ［参考－６］世界の貿易（１）

## ＜必修統計；世界各国・地域の輸出品目＞

| 順位 | 国名 | 輸出品目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | １位 | ２位 | ３位 | ４位 | ５位 |
| １位 | A | 機械類 | 衣類 | 繊維と織物 | 金属製品 | 自動車 |
| ２位 | B | 機械類 | 自動車 | 石油製品 | 精密機械 | 化学薬品 |
| ３位 | C | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 精密機械 | 金属製品 |
| ４位 | D | 機械類 | 自動車 | 精密機械 | 鉄鋼 | 化学薬品 |
| ５位 | E | 機械類 | 自動車 | 船舶 | 石油製品 | 精密機械 |
| ６位 | F | 機械類 | 航空機 | 自動車 | 医薬品 | アルコール飲料 |
| ７位 | オランダ | 機械類 | 石油製品 | 自動車 | 野菜と果実 | 化学薬品 |
| ８位 | G | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 衣類 | 金属製品 |
| ９位 | ホンコン | 機械類（63％） | 金（非貨幣用） | 精密機械 | ダイヤモンド | 衣類 |
| 10位 | H | 機械類 | 自動車 | 医薬品 | 航空機 | 原油 |
| 11位 | ベルギー | 自動車 | 機械類 | 医薬品 | 化学薬品 | 石油製品 |
| 12位 | I | 自動車 | 原油 | 機械類 | 金（非貨幣用） | 石油製品 |
| 13位 | J | 機械類 | 自動車 | 原油 | 精密機械 | 野菜と果実 |
| 14位 | シンガポール | 機械類（46％） | 石油製品 | 精密機械 | 化学薬品 | プラスチック |
| 15位 | K | 原油 | 石油製品 | 鉄鋼 | 石炭 | 機械類 |
| 16位 | L | 自動車 | 機械類 | 野菜と果実 | 衣類 | 石油製品 |

品目の数値は当該国・地域の総輸出額に占める割合。

統計年次は 2017年など。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；日本・韓国・中国・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペイン・
ロシア・カナダ・アメリカ合衆国・メキシコ

# ＜要点整理＞

１位；（A　　　　　　　）　GNI世界２位。軽工業も発達。衣類の輸出。

２位；（B　　　　　　　）　GNI世界１位。世界最大の貿易赤字国。航空機の輸出。

３位；（C　　　　　　　）　GNI世界４位。高度な技術を生かした自動車，医薬品，精密機械。

４位；（D　　　　　　　）　GNI世界３位。世界有数の自動車（乗用車）輸出国。

５位；（E　　　　　　　）　船舶の世界的な生産国で輸出も多い。

６位；（F　　　　　　　）　ヨーロッパ最大の航空機生産国。

７位；オランダ　ユーロポート（ロッテルダム）はヨーロッパ最大の貿易港。

８位；（G　　　　　　　）　高級衣料品の輸出。

９位；ホンコン　中国の特別行政区（資本主義経済）。中継貿易港。

10位；（H　　　　　　　）　原油の輸出も行っている。

11位；ベルギー　ダイヤモンド流通の中心。

12位；（ I　　　　　　　）　隣国から工場が進出することで自動車工業が発達。またその隣国へと盛んに資源が輸出されている。世界最大の経済規模を有する自由貿易圏に含まれる。

13位；（ J　　　　　　　）　低賃金であるため隣国から機械工場が進出。原油の産出も。２位と11位の国と自由貿易圏を形成。

14位；シンガポール　中継貿易港。工業は石油化学が主。

15位；（K　　　　　　　）　世界的な資源国。原油や天然ガス。なお日本には木材やアルミニウムの輸出。

16位；（L　　　　　　　）　隣国などから自動車工場が進出。また温暖な気候であり，果実の輸出も盛ん。

# ［参考－７］世界の貿易（２）

## ＜必修統計；世界各国・地域の輸出相手国・地域＞

| 順位 | 国名・地域名 | 輸出相手国・地域 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | １位 | ２位 | ３位 |
| １位 | A | アメリカ合衆国 | ホンコン | 日本 |
| ２位 | B | カナダ | メキシコ | 中国 |
| ３位 | C | アメリカ合衆国 | フランス | 中国 |
| ４位 | D | アメリカ合衆国 | 中国 | 韓国 |
| ５位 | E | 中国 | アメリカ合衆国 | ベトナム |
| ６位 | F | ドイツ | スペイン | アメリカ合衆国 |
| ７位 | オランダ | ドイツ | ベルギー | イギリス |
| ８位 | G | ドイツ | フランス | アメリカ合衆国 |
| ９位 | ホンコン | 中国<br>（54％） | アメリカ合衆国 | インド |
| 10位 | H | アメリカ合衆国 | ドイツ | フランス |
| 11位 | ベルギー | ドイツ | フランス | オランダ |
| 12位 | I | アメリカ合衆国<br>（76％） | 中国 | イギリス |
| 13位 | J | アメリカ合衆国<br>（80％） | カナダ | ドイツ |
| 14位 | シンガポール | 中国 | ホンコン | マレーシア |
| 15位 | K | 中国 | オランダ | ドイツ |
| 16位 | L | フランス | ドイツ | イタリア |

国名の数値は，当該国・地域の総輸出額に占めるその国に対する貿易額。

統計年次は2017年など。『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

選択肢；日本・韓国・中国・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペイン・
カナダ・アメリカ合衆国・メキシコ・ロシア

## ＜解答＞

［1］ A　中国　B　日本　C　アメリカ合衆国　D　韓国　E　ドイツ

［2］ A　中国　B　アメリカ合衆国　C　日本　D　ドイツ

［3］ A　綿織物　B　絹織物　C　化学繊維　D　パルプ　E　アルミニウム

［4］ A　船舶　B　産業用ロボット(稼働台数)　C　薄型テレビ(アジアのみ)　D　ＰＣ

［5］ A　日本　B　韓国　C　中国　D　ホンコン　E　台湾

［6］ A　フィリピン　B　ベトナム　C　タイ　D　マレーシア　E　シンガポール　F　インドネシア

［7］ A　バングラデシュ　B　インド　C　スリランカ

［8］ A イラン　B　イスラエル　C　トルコ

［9］ A　アルジェリア　B　エチオピア　C　ケニア　D　コートジボワール　E　ナイジェリア　F　南アフリカ共和国

[10] A　アイスランド　B　ノルウェー　C　スウェーデン　D　フィンランド　E　デンマーク

[11] A　イギリス　B　ドイツ　C　フランス　D　イタリア　E　スペイン

[12] A　スイス　B　ポルトガル　C　チェコ　D　ウクライナ

[13]　A　カナダ　B　アメリカ合衆国　C　メキシコ　D　オーストラリア　E　ニュージーランド

[14]　A　ジャマイカ　B　ベネズエラ　C　チリ　D　ブラジル　E　アルゼンチン

［参考－１］　A　中国　B　アメリカ合衆国　C　インド　D　日本　E　ドイツ　F　フランス

［参考－２］　A　石炭　B　原油　C　天然ガス　D　ウラン

［参考－３］　A　鉄鉱石　B　銅鉱　C　金鉱　D　銀鉱　E　ボーキサイト　F　ダイヤモンド

［参考－４］　A　小麦　B　トウモロコシ　C　豚肉　D 木材

［参考－５］　A　鉄鉱石　B　石炭　C　天然ガス　D　原油　E　銅鉱　F　衣類(同付属品含む)　G　カラーテレビ　H　自動車　I　時計　J　ダイヤモンド　K　アルミニウム(同合金含む)

［参考－６］　A　中国　B　アメリカ合衆国　C　ドイツ　D　日本　E　韓国　F　フランスG　イタリア　H　イギリス　I　カナダ　J　メキシコ　K　ロシア　L　スペイン

［参考－７］　A　中国　B　アメリカ合衆国　C　ドイツ　D　日本　E　韓国　F　フランス　G　イタリア　H　イギリス　I　カナダ　J　メキシコ　K　ロシア　L　スペイン

〈 ***Note*** 〉